

2021 年度「行政改革の推進に向けた外部有識者による公開ヒアリング」の結果

ヒアリング対象項目	概要	有識者の主な意見
<p>① 消防団の加入促進 【防災安全局】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 消防団は、地域防災の要であるが、少子高齢化等により団員の確保が難しくなっており、年々減少を続けている。</li> <li>○ 消防団員の確保のため、県として問題点や課題を抽出した上で、効果的な加入促進策を検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 消防団員の条例定数を充足するため、<b>充足率の高い市町村の状況や各市町村固有の課題を把握</b>すべき。</li> <li>○ 女性・学生の機能別団員のみ確保するのではなく、<b>基本団員数も維持していく必要がある</b>。</li> <li>○ <b>サラリーマン</b>が職場と住居が離れている場合でも<b>加入し活躍できるように検討</b>すべき。</li> <li>○ 消防と消防団の区別がつかないことから、「消防団」という言葉を報道において<b>アピールする必要</b>がある。</li> <li>○ 地域・家族・職場の中での消防団に対する感謝の気持ちをより増大させるために、<b>今までとは違った普及啓発活動を検討</b>すべき。</li> </ul>
<p>② あいち海上の森センターの機能・役割のあり方 【農林基盤局】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ あいち海上の森センターは、「海上の森保全活用計画 2025」に基づき、海上の森の活用・保全に取り組んでいる。</li> <li>○ 2022 年のジブリパーク開園のインパクトを活かした海上の森の活用促進策を含め、センターの機能・役割を検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 海上の森の<b>環境保全と利用促進のバランス</b>をとり、関係者の総意のもとで、<b>両立させることが重要</b>である。</li> <li>○ ジブリパークとあいち海上の森センターの位置づけを整理し、<b>ジブリパークとセットで発信性を高めることを検討</b>すべき。</li> <li>○ 整備費用の確保と来訪者の制限のため、<b>施設の一部有料化を検討</b>すべき。</li> <li>○ 指定管理を含め、<b>民間の力を活用した運営により創意工夫</b>することを検討すべき。</li> <li>○ 来訪者が身近な地域で生物多様性に取り組める仕掛けを作るなど、<b>利用者の質を高める運用</b>を行うべき。</li> <li>○ 愛・地球博のレガシーであり、日本の里山の伝道の地として、<b>人的ネットワークの構築と若者の人材育成</b>を行う拠点とすべき。</li> </ul>

ヒアリング対象項目	概要	有識者の主な意見
<p><b>③病院事業庁における働き方改革の推進【病院事業庁】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 働き方改革関連法が施行され、時間外労働の上限について、事務職員は月 45 時間かつ年間 360 時間以内（2019 年 4 月から適用）、医師は年間 960 時間以内（2024 年 4 月から適用）が原則とされている。</li> <li>○ 現状、医師等の長時間勤務が常態化していることから、要因分析・検証を行った上で、総勤務時間の縮減に向けた方策を検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2024 年の法施行に向けて、いつまでにどの成果を実現させるのか数値目標も含めて明文化し、可能な部分から早期に取り組むべき。</li> <li>○ 部門別、業種別、年齢別、男女別に労働実態を分析し、見える化した上で検討すべき。</li> <li>○ 各病院の特徴をしっかりと把握し、各病院において早期に取り組めることから進めるべき。</li> <li>○ 管理者が職員の仕事量や労働時間を把握し、組織的に改善すべき。</li> <li>○ 患者ファーストで業務改革に取り組むべき。</li> <li>○ リモート診療等 ICT の活用を進めるべき。</li> <li>○ 行政ネット環境の整備による効果をしっかりと検証すべき。</li> <li>○ コンサルタント等第三者の意見や、他の県立病院との意見交換会等を取り入れるべき。</li> </ul>